

平成 29 年度 活動報告

教育部門

1. はじめに

本人の防災力の向上や、地域防災に貢献する人を育てることを目的として、共通教育科目において科目を提供している。地域社会貢献のために、公開授業にも提供されており、一般社会人の受講も可能となっている。

これらの共通教育科目は「防災リーダーの育成」に関わる「防災士」養成の研修講座としても認定されている。これらの単位取得および別途救命講習の修了証取得によって、防災士の資格取得試験を受験できる。救命講習と資格取得試験も教育部門で準備し、実施している。

本年度も、教員免許状所持者のための教員免許状更新講習も開設し、実施した。

以上については、来年度も引き続き実施するため、その準備作業も行った。

2. 共通教育科目 2 科目の提供（公開授業にも提供）

(1) いのちと地域を守る防災学 I (Disaster mitigation to guard lives and communities I)

開講期：前期／講義形式／2 単位／大分類：教養教育科目(教養活用科目)／小分類：統合 I(課題発見)／受講対象：全学部／担当教員：小林励司他 13 人

授業概要：

授業では、自然災害やその対策について正しい知識を持つと同時に、地域自治体や防災組織が現在行っている防災への取り組みや新しい技術を理解し、災害時にはいのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得することを目的とする。この講義は、自然・人文に及ぶ複合的・総合的な「防災学」のかなりの範囲を網羅するものであり、本学のさまざまな学部・大学院・教育研究施設に所属する「防災学を専門とする教員」がそれぞれの得意分野をオムニバス形式で担当講義する。

後期の「いのちと地域を守る防災学 II」と対になる構成となっており、前期の本授業では、災害を知り、それに対する対処・対策を考えることに重きが置かれている。なお、この授業の概要・性格から本授業は、「防災士」受験資格取得科目の 1 つとなっている。

学習目標：

1. さまざまな自然災害の発生のしくみを始めとして、防災にかかわる知識や技術などを理解し、災害種ごとに説明できる。
2. 災害種ごとに一般的な対策・対処のしかたを理解し、地域の特性に応じておおよそ適当な対策などを選択できる。
3. 万が一に災害が生じた場合、いのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得する。

授業内容と担当者：

1. 講義の目的/防災士とは/近年の自然災害に学ぶ (理工学研究科;小林励司)
2. 鹿児島自然災害史 (理工学研究科;井村隆介)
3. 津波のしくみと被害 (理工学研究科;柿沼太郎)
4. 避難と避難行動 (理工学研究科;浅野敏之)
5. 風水害と対策 (理工学研究科;安達貴浩)
6. 社会基盤の地震被害 (理工学研究科;木村至伸)
7. 災害と健康支援 (医学部;丸谷美紀)
8. 島嶼災害と対策 (地域防災教育研究センター;下川悦郎)
9. 土砂災害と対策 (農学部;地頭蘭隆)
10. 地震のしくみと被害 (理工学研究科;小林励司)
11. 火山噴火のしくみと被害 (理工学研究科;八木原寛)

12. 歴史災害に学ぶ防災意識（教育学部;佐藤宏之）
13. 自然体験活動と防災及び避難生活者の健康づくり支援について(教育学部;福満博隆)
14. 中山間地域における地盤災害と農地復旧対策（農学部;平瑞樹）
15. 学校教育における防災教育の実情と課題（教育学部;黒光貴峰）

(2) いのちと地域を守る防災学 II (Disaster mitigation to guard lives and communities II)

開講期：後期／講義形式／2 単位／大分類：教養教育科目(教養活用科目)／小分類：統合 II(課題解決)／受講対象：全学部／担当教員：小林励司他 11 人

授業概要：

授業では、自然災害やその対策について正しい知識を持つと同時に、地域自治体や防災組織が現在行っている 防災への取り組みや新しい技術を理解し、災害時にはいのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得することを目的とする。この講義は、自然・人文に及ぶ複合的・総合的な「防災学」のかかなりの範囲を網羅するものであり、本学のさまざまな学部・大学院・教育研究施設に所属する「防災学を専門とする教員」がそれぞれの得意分野をオムニバス形式で担当講義する。

前期の「いのちと地域を守る防災学 I」と対になる構成となっており、後期の本授業では、災害にかかわる情報を知り、新たな減災や危機管理の手法を身に着けることに重きが置かれている。また、鹿児島市消防局、鹿児島地方気象台、県危機管理課、県原子力安全対策課からの授業を用意しており、行政の防災関係機関の現場対応などを知ることができる。なお、この授業の概要・性格から本授業は、「防災士」受験資格取得科目の 1 つとなっている。

学習目標：

1. 災害にかかわる情報の種類やその発信・入手方法の概要を理解し、災害種や災害ステージ等に応じてそれらを説明できる。
2. 新たな減災や危機管理の手法を一般的なレベルで理解し、地域の特性に応じておおよそ適当な手法を選択できる。
3. 万が一に災害が生じた場合、いのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得する。

授業内容と担当者：

1. 講義の目的/災害と流言・風評(理工学研究科;小林励司)
2. 地震に関する知見・情報(理工学研究科;小林励司)
3. 気象災害の監視と予測(地域防災教育研究センター;眞木雅之)
4. ト라우マの理解と心理的ケア I(教育学部;関山徹)
5. ト라우マの理解と心理的ケア II(教育学部;関山徹)
6. 鹿児島県の災害と危機管理(鹿児島県危機管理防災課;小田健治)
7. 災害報道・リスクコミュニケーション(南日本新聞;桐野秀吾)
8. 自然災害に対する行政の危険防止責任(法文学部;森尾成之)
9. ハザードマップ(理工学研究科;井村隆介)
10. 大規模災害と情報通信 I(学術情報基盤センター;升屋正人)
11. 大規模災害と情報通信 II(学術情報基盤センター;升屋正人)
12. 地域の復旧と復興(法文学部;小林善仁)
13. 鹿児島県の原子力防災対策(鹿児島県原子力安全対策課;西博夫)
14. 火山の監視と防災情報(鹿児島地方気象台;森博一)
15. 福島第1原発事故の概要と放射線による健康影響(福島県〇医科〇学;佐藤久志)

3. 防災士養成の取り組み

(1) 研修講座相当(認定)の共通教育科目の提供

2. の共通教育科目 2 科目について、日本防災士機構に研修講座相当と認定してもらう手続きを行った。

(2) 救命講習会の実施

防災士資格取得のために、指定された救命講習を修了する必要がある。今年度は、鹿児島市消

防局に普通救命講習 1 を依頼し、実施した。

「普通救命講習 1」

日時：2018 年 1 月 12 日（金）9:30～12:30

場所：鹿児島大学理学部 2 号館 214 号講義室

内容：救命措置（胸骨圧迫・人工呼吸・AED 使用）の実習、異物除去・回復体位の演習解説

講師：鹿児島市消防局甲南分遣隊の消防士 2 人

受講者：防災士資格取得希望者 12 人・教員 1 人

(3) 防災士資格取得試験対策

防災士資格取得試験は、『防災士教本』の内容に基づいて行われる。2. の共通教育科目 2 科目では網羅できない部分があるため、その部分の学習が必要となる。

今年度は、社会人が多く日程調整が難しかったため、講義形式にはせず、レポート課題を出すことで試験対策とした。

(4) 防災士資格取得試験の実施（原稿提出時では予定）

日時：2018 年 2 月 17 日（土）14:00～15:00

場所：鹿児島大学理学部 2 号館 214 号講義室

実施者：日本防災士機構

受講者：防災士資格取得希望者 12 人

4. 教員免許状更新講習の開設

開設講習名：地域防災の最前線

実施日：平成 29 年 8 月 8 日

講師：下川悦郎、眞木雅之、柿沼太郎